

生徒・保護者・どなたでも  
ご鑑賞いただけます♪

## 第54回

東京私立中学高等学校

# 教職員音楽会

東京の私学教員によるスペシャルコンサート

# 2020.1.12 [日]

[開場] 12:30 [開演] 13:00

[終演] 16:00(予定) 途中入退場可

[会場] 東京オペラシティリサイタルホール (B1F)

主催：一般財団法人 東京私立中学高等学校協会 / 東京私学教育研究所

共催：公益財団法人 東京都私学財団

### 11. メゾ・ソプラノ独唱

15:02~15:12

メゾ・ソプラノ 藤山 さわ子  
(共立女子中学高等学校)

ピアノ 飯島 みずき

1. ガニメート / F. シューベルト
2. オペレッタ「フリーデリーケ」より「なぜキッスで目覚めさせたの?」 / F. レハール
3. プラター公園は花ざかり / R. シュトルツ

【ガニメート】ギリシャ神話に取材したゲーテの詩。ゼウスが天上から地上の美少年、ガニメートを見初め、驚にさらわせる。少年がオリンポスの高みへと登っていくさまが描かれている。【なぜキッスで目覚めさせたの?】同じくゲーテの詩。題材は大学生時代のゲーテとフリーデリーケ・プリオンとの悲恋。ワイマールの宮廷に召されるゲーテのために自ら身を引いたフリーデリーケが、辛い心の内を歌う。【プラター公園は花ざかり】シュトルツのヴィンナ・リート。ワルツのリズムに乗せて、ウィーンっ子の憩いの場プラターの春の情景が歌われる。

### 12. ピアノ独奏

15:13~15:22

ピアノ 小尾 亜希子  
(NHK学園高等学校)

1. ピアノ・ソナタ第3番 Op28 イ短調 / S. プロコフィエフ

【ピアノ・ソナタ第3番 Op28 イ短調】セルゲイ・プロコフィエフは、20世紀に活躍したロシア・ソヴィエトの作曲家。革命と戦乱のロシア現代史を生きながらも、交響曲、バレエ、映画音楽、オペラ作品に至るまで、多彩な作曲活動には目を眩るものがある。彼は優れたピアニストとしても知られており、ピアノ・ソナタ第3番は、ロシア革命以前の若い頃の作品である。ピアノの打楽器的な活用、躍動するリズム、様々な調性のハーモニーの結合など独自の音楽語法が見られ、大変興味深い作品である。

### 13. ソプラノ独唱

15:23~15:34

ソプラノ 宮内 優子  
(和洋九段女子中学校高等学校)

ピアノ 川上 佳倫  
(和洋九段女子中学校高等学校)

1. 私を死なせてください / C. モンテヴェルディ
2. 歌劇「椿姫」より「ああ、そは彼の人か〜花から花へ」 / G. ヴェルディ

【私を死なせてください】1608年に初演されたオペラ「アリアンナ」。恋人の心変わりによって島に置き去りにされてしまうアリアンナが、岩の上で歌う嘆きの歌。全曲は失われてしまったがこの歌は大流行し、今日まで残された。【ああ、そは彼の人か〜花から花へ】「椿姫」第1幕：アルフレードに真実の恋をしてしまったのか? いままで全く知らなかった愛、その喜び! それは、自分が密かに心の奥底ですっと夢見ていたことではなかったか。そんな馬鹿な! 心の底から突き上げてくる愛情にヴィオレッタは自問自答し恋心が高まっていく有名なアリア。

### 14. サクソフォン独奏

15:35~15:44

サクソフォン 箱崎 理沙  
(武蔵高等学校中学校)

ピアノ 望月 香菜子

1. プレリュードとサルタレロ / R. ブラネル

【プレリュードとサルタレロ】ロベール・ブラネル(1908-1994)は近代~現代を生きた作曲家でありながら聴衆が親しみやすい作品を多く残している。ヴァイオリン奏者としてキャリアをスタートさせ、クラシック音楽に数多く触れたことがブラネルの音楽観に影響を与えたと考えられる。この曲は静寂に始まり次第に熱気を帯びる「プレリュード」、カデンツァ、「サルタレロ(13世紀のナポリの踊り)」によって構成される。サクソフォンはフランスで発明された楽器で、ブラネルもフランス人である。遠い日本でエスプリを感じられるとても素敵な組み合わせである。

● 主催：一般財団法人 東京私立中学高等学校協会 東京私学教育研究所 ● 共催：公益財団法人 東京都私学財団

東京私学教育研究所  
芸術体育系教科研究会(音楽) Tel: 03-3263-0544

委員長 川上 裕美子 東京音楽大学付属高等学校  
委員 橋本 武士 芝中学高等学校  
委員 松本 稔弘 成城中学校・成城高等学校  
委員 浅香 郁子 上野学園中学校・高等学校  
委員 小川 教子 日本音楽高等学校



## 01. ソプラノ独唱 トロンボーン独奏

13:00~13:09

- ソプラノ** 松田 乃利子  
(日本音楽高等学校)
- トロンボーン** 暮林 直樹  
(日本音楽高等学校)
- ピアノ** 小川 教子  
(日本音楽高等学校)

1. パッハ風に / J.M. ドゥファイ
2. いとしい人が来る時 / G. バイジェッロ

【パッハ風に】トロンボーンとピアノのための「パッハ風に」は1990年の作品である。タイトルがすべてを物語るバロック風の書式に貫かれた小品だが、「ブランデンブルグ協奏曲」を連想させるモチーフの用法にせよ単なる模倣の域を超えた筆の冴えを感じさせずにはおかない。【いとしい人が来る時】相思相愛の相手と結婚を許していたはずの父が、より有利な求婚者に心変わり。目の前で新たな婚約者に恋人を刺し殺されて気がふれた娘。父は後悔して反省、実は生きていた恋人が戻ってきてハッピーエンドで終わる。

## 02. バリトン独唱

13:10~13:21

- バリトン** 小林 秀年  
(法政大学中学高等学校)
- ピアノ** 金井 由里子

1. 連作歌曲集「冬の旅」より“凍った涙” / F. シューベルト
2. 連作歌曲集「冬の旅」より“凍結” / F. シューベルト
3. 連作歌曲集「冬の旅」より“菩提樹” / F. シューベルト

【凍った涙 / 凍結 / 菩提樹】歌曲集「冬の旅」はミュラーの詩によるもので、シューベルトの最晩年の傑作である。本日演奏する曲は冒頭の3~5曲目にあたる。若者はよそ者として街に来たが再びよそ者として旅立つ決意をし歩き始める。「凍った涙」は若者はよるめきながら歩いていることを描写している。「凍結」は前奏の3連符が落ち着かない気分を漂わせる。これは畑を吹き抜ける寒風か、あるいは若者の心が奔放に駆け巡る様子を描いたとされる。やがて若者は「菩提樹」にたどりつく。ここに愛の言葉を彫りつければ願いが成就すると思ったのかもしれない。

## 03. ピアノ連弾

13:22~13:33

- ピアノ** 岩瀬 愛優  
(上野学園中学校・高等学校)
- ピアノ** 武澤 陽介  
(上野学園中学校・高等学校)

1. アンダンテと華麗なるアレグロ Op.92 / F. メンデルスゾーン

【アンダンテと華麗なるアレグロ Op.92】気品と華麗さを併せ持つこの連弾作品は、1841年、ライブツィヒ、ゲヴァントハウスの慈善演奏会で、作曲家メンデルスゾーン自身とクララ・シューマンによって演奏するために書かれた。抒情的小品である無言歌を彷彿とさせる、2名の奏者によって奏でられる絶妙な和声と非和声音の織りなす美しい旋律が魅力の導入部は、まるで歌劇のアリアのよう。後に続く主部の澆刺とした音楽性とともに、作曲者の類い稀な品格と靈感の表出である。ロマン派ピアノ室内楽が隆盛を極めた十九世紀中期の結晶のような作品である。

## 04. ソプラノ独唱

13:34~13:45

- ソプラノ** 原島 秀子  
(明治大学付属中野/壬子中学・高等学校)
- ピアノ** 諫山 万貴

1. モテット KV.165 より“踊れ、喜べ、幸いなる魂よ” / W.A. モーツァルト
2. おんがく / 木下 牧子
3. 歌劇「ロメオとジュリエット」より“私は夢に生きたい” / C. グノー

【踊れ、喜べ、幸いなる魂よ】17歳で作曲。1773年1月17日夕方に行われる盛儀の聖体降福式のためのモテットで、「平和の元后聖母マリア」に捧げられた曲だと考えられる。【おんがく】アカペラ合唱曲として全国で愛唱されており、歌唱曲版要請が多かったのでソプラノ・野崎由美さんのCDのために書きおろし編曲された曲。【私は夢に生きたい】第1幕 ロメオと運命の出会いをする前のジュリエットが、乳母に伯爵との結婚を勧められ「そんなことを言わないで、まだ夢の中にいさせて」と人生の春を謳歌して無邪気に歌う歌。

## 05. バリトン独唱

13:46~13:56

- バリトン** 松本 稔弘  
(成城中学校・成城高等学校)
- ピアノ** 小川 教子  
(日本音楽高等学校)

1. ペトラルカの3つのソネットより第123番「私はこの地上で天使の姿を」 / F. リスト
2. 歌劇「エドガール」-第1幕アリア“この愛は僕の恥” / G. プッチーニ

【私はこの地上で天使の姿を】「ペトラルカの3つのソネット」は、ピアノ曲「巡礼の年第2年イタリア」に含まれています。曲想は詞の内容と同様に甘美な雰囲気と情熱を秘めた旋律が続き、伴奏の三連譜にのせて哀愁を伴い演奏されます。【この愛は僕の恥】プッチーニ第2作目の初期のオペラで、円熟期の作品に聴かれる独特の音楽スタイルは確立されていませんが、若さ溢れるエネルギーと美しいメロディがそれを補っています。このアリアでは、身勝手な女性に酷い仕打ちをされ、それでも彼女を愛していると歌われます。歌曲のように美しい旋律で透明感があるアリアです。

## 06. 2重奏 ピアノ独奏

13:57~14:07

- ピアノ** 稲益 和子  
(大妻多摩中学高等学校)
- ヴァイオリン** 辻 有砂

1. ヴァイオリンとピアノの為のソナタ 28番 Emoll K304 第2楽章 / W.A. モーツァルト
2. プレリュード Op23No2 / S. ラフマニノフ

【ヴァイオリンとピアノの為のソナタ28番 Emoll K304 第2楽章】母アンナが死去した時の作品。彼の短調の作品は非常に少なく、代表的なものとしては、運命のト短調（交響曲第40番&25）、ピアノ協奏曲第8番、そして最後の作品「レクイエム」などです。貴重な短調の作品をお楽しみください。【プレリュード Op23No2】ラフマニノフの前奏曲は、どれもピアノの鍵盤を広く使ったドラマティックな音色と詩情豊かなメロディーを合わせ持っている。第2番も左手のアルペジオにのせて力強い主題が右手で歌われている。中間部では、右手にさざ波のような音型が表れており後期ロマン派の香りをまとった濃厚さに満ちている。

## 07. ソプラノ独唱

14:08~14:19

- ソプラノ** 須藤 美香  
(目黒星美学園中学高等学校)
- ピアノ** 木村 知実

1. Ave Maria di Grazia Piena / V. チマッティ
2. オペラ「細川ガラシア」より“清らかなる蓮の花” / V. チマッティ
3. オペラ「細川ガラシア」より“無の中より” / V. チマッティ

【Ave Maria di Grazia Piena】作曲者のチマッティ神父(1879 ~ 1965)は、1925年に宣教師の団長として来日した。約950曲の楽曲を作曲し、戦前戦後を通してイタリアや日本でよく知られた音楽家であった。1900年、当時21歳のチマッティ神父は、イタリア語で「Ave Maria」を作曲した。歌詞の一つひとつが繰り返されるころは、天の母を深く愛していたチマッティ神父の心をよく表している。【清らかなる蓮の花 / 無の中より】1960年に初演されたオペラ「細川ガラシア」は、イタリアと日本音楽が融合した外国人による最初の日本語のオペラである。このオペラには明智光秀の三女、細川ガラシアの悲しくも短い生涯が描かれている。

## 08. テノール独唱

14:30~14:38

- テノール** 牛山 丈嗣  
(成城学園中学校高等学校)
- ピアノ** 多田 聡子

1. 海の歌 / P. チマーラ
2. 歌劇「トゥーランドット」より“泣くなリュー” / G. プッチーニ

【海の歌】ストルネッラータとはストルネッコを歌うことの意味。ストルネッコは、恋愛や風刺を内容とするイタリア中部の民謡の形式。この歌曲はチマーラが好んだペーシの詩に付した曲。【泣くなリュー】イタリアを代表する作曲家：G.プッチーニの歌劇「トゥーランドット」でカラフによって歌われるアリア。直前には密かにカラフを愛するリューによって切ないアリア「お聞き下さい、王子様」が歌われる。リューは涙ながらに思いを訴えるが、その思いはカラフには届かず、カラフは決意を持って父であるティムール王をリューに託す。

## 09. ソプラノ独唱

14:39~14:50

- ソプラノ** 吉田 明美  
(白梅学園高等学校)
- ピアノ** 酒井 愛可

1. ああ愛する人の / S. ドナウディ
2. 歌劇「エルナーニ」より“エルナーニよ、一緒に逃げて” / G.ヴェルディ

【ああ愛する人の】Dnauyはイタリアの作曲家で「ああ愛する人の」は「古典様式による36のアリア」の1曲である。【エルナーニよ、一緒に逃げて】歌劇「エルナーニ」はヴィクトル・ユゴーが著したロマン主義戯曲の傑作「エルナーニ」が原作で、イタリアの独立、統一の機運と相俟って、イタリア人の愛国心を刺激した。16世紀初頭のスペイン。国王との戦に敗北したエルナーニは、山賊の首領に身を落とす。彼はエルヴィーラと愛し合う仲だが、彼女はスペイン大公の姪であると同時に結婚を迫られている。このアリアは愛するエルナーニを思って「エルナーニ、私を奪って逃げて」と歌われる。

## 10. ピアノ独奏

14:51~15:01

- ピアノ** 安野 彩花  
(淑徳 SC 中等部・高等部)

1. Ballade No.1 / F. ショパン

【Ballade No.1】1836年出版。ドゥ・シュトックハウゼン男爵に献呈。バラードとは、もともと吟遊詩人の歌で、日本で言えば平家物語を語る琵琶法師の詩吟に相当する。ショパンはそれを初めて歌詞の付かない絶対音楽に持ち込んだといわれている。4曲のバラードはどれもソナタ形式風だが、几帳面なソナタ形式にとらわれてはいない。ショパンのバラードは物語的な深い楽想に始まり激しい部分もあり、途中何度も盛り上がるなど、古典的アレグロ・ソナタ形式のようにただせわしない音楽ではなく、起伏に富むドラマを展開している。